

農業の未来予想図

豊かな自然に恵まれ、高品質な農畜産物を全国へ届けてきた奥州市の農業。
一方で、米価の下落や農業の担い手不足など、さまざまな課題に直面しています。
奥州市の農業の今と農業関係者が思い描く未来予想図を皆さんにお伝えします。

●本庁農政課農政係（☎ 34-1582）



上／テレビCMにも使われた
藤里の美しい里山風景 左下
／広大な水田の草刈りに汗を
流す嘉春さん 右下／取材時
には稲の花が清楚に咲いてい
た。秋には実り江刺金札米と
して出荷される

■奥州市の日本型直接支払制度取り組み実績

取り組み名	主な内容	組織(協定)数	対象面積
多面的機能支払	地域による水路・農道などの管理 や補修などを支援	138	14,397ha
中山間地域等直接支払	農業生産条件が不利な中山間地域 で、将来に向けた生産活動を支援	201	5,730ha
環境保全型農業直接支払	自然環境の保全に資する農業生産 活動の実施に伴う追加的コストを 支援	64	1,378ha

出典：令和3年面積調査

て、食料の国産化・産地化と
食料自給率の向上が、緊急の
課題となっています。大豆を



全国に誇る農畜産物

豊かな自然に恵まれ、県内最大の耕地面積を誇る奥州市。肥沃な大地と先人の努力によって、高品質な農畜産物を生産してきました。中でも、肉質日本一に輝いた前沢牛や、一箱140万円の値がつく江刺りんごなどは、全国にも広く知られています。

奥州市は、県内第1位の収穫量を誇る米どころで、主力品種のひとめぼれを中心に、金札米や金色の風などのブランド米が生産されています。野菜では、県内の一大産地となっているピーマンや大豆をはじめ、トマトやキュウリなどの生産も盛んです。

生産者が丹精込めて育てた農畜産物は、市内だけでなく全国へ向けて出荷され、消費者の元へと届けられています。

奥州市の農業の今

奥州市の農業産出額のうち、割合が最も多いのは米です。農地の利用状況を見ても稲作を中心に農業が進められてきました。しかし、消費者の食

はじめとする農産物の確保や、小麦の代替食材としての米の活用などが見直されています。

奥州市の農業を支えてきた担い手の高齢化や人口減少も深刻な問題となっています。2年度に行われた調査によると、市内の農業従事者に占める75歳以上の割合は36%でした。15年前と比較すると2倍に増えています。また、販売

農家のうち、農業後継者がいない割合も65%に上りました。担い手の不足によって、地域の共同活動などによって支えられてきた※農業の多面的機能の発揮にも支障が生じつつあります。農地の保全や地域の共同活動が困難になり、水路や農道などの維持管理の負担が増大。規模拡大を考えている担い手への影響が懸念されています。

守りたい田畑や山

現在、農業はさまざまな課題に直面していますが古里を愛し、農業に夢を持ち続けている人たちがいます。江刺藤里の佐々木嘉春さん（51）もその一人です。

生活の変化やコロナ禍での外食需用の落ち込みにより米価が下落。稲作農家の経営に大きな影響が及んでいます。一方で、国際情勢の変化による食料高騰などを契機とし

嘉春さんは、30歳のときに花の卸会社を辞め、実家の農業を継ぎました。戻ってきてみると、親世代は頑張って農業をしているものの、その子どもたちは誰もしていませんでした。将来を案じた嘉春さんは「稲作で地域景観を守り、リンゴ栽培で地域雇用を生み出そう」と考え、担い手になることを決意します。

就農当初は全然集まらなかった農地も、高齢化などで農業を辞める人が出るたびに引き受けていきました。現在は、中山間地域等直接支払制度の集落代表者を務めながら20畝の水田を担っており、転作にヒマワリや大豆、サツマイモなども手掛けています。

しかし、担い手だけでは駄目だと嘉春さんは語ります。この30年で多くの兼業農家が失われました。景観を守るには人手が必要のため、兼業農家を維持することが地域では大切なことだと訴えます。「副業としての農業は、ライフスタイルとして魅力的です。多くの人たちがそこに気付いて里山で暮らしてくれたら」と思いを口にします。

※農業の多面的機能…農畜産物の生産のほか、災害の防止や生態系の保全、自然景観の形成など、農業が果たしている多くの役割のこと

■奥州市の令和2年農業産出額（推計）

（単位：億円）

区分	米・麦・豆など		野菜	果実	花き	畜産		その他	合計
	うち米	うち麦				うち肉用牛	うち鶏卵		
産出額	122.5	116.5	21.7	17	4.2	60.5	35	2.5	228.4

出典：農林水産省令和4年3月公表

■販売農家の基幹的農業従事者※1に占める75歳以上の割合

（単位：人）

区分	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年※2
基幹的農業従事者	9,417	10,102	9,043	7,046
75歳以上の人数（割合）	1,666（18%）	2,876（28%）	3,119（34%）	2,514（36%）

※1 農業を主な仕事としている人のこと

出典：農林業センサス

※2 令和2年から対象を個人経営体の基幹的農業従事者に変更